

女性研究者育成活動 ～大学院進学のおすすめ～

日本における女性研究者の割合は、諸外国に比べて極めて低いと指摘されています。研究領域での男女共同参画を進めるには、人材の育成が根幹にあると考えられます。しかし、多くの学部において、女性の大学院進学率は低く、研究領域における男女共同参画への遅滞は、ますます深刻になると予測され、現在、女性が大学院に進学しやすい環境整備が課題となっています。

2017（平成29）年8月21日、薬学部34号館の講義室で開催された薬学部6年生を対象とした就職説明会において、大学院1年生で非常勤助手を務めている女性大学院生により、進路先の一つとして大学院への進学を紹介が行なわれました。この女性大学院生が、大学院への進学を選択した背景には、オックスフォード大学への語学留学、府中学びフェスタでの体験、アイランドキャンパス事業や研究室での研究・学会発表など、幅広い学生時代の体験があり、自分が何をやりたのかを考えた結果、研究にチャレンジしてみることを決めたとのことでした。女性大学院生は「病院や薬局の薬剤師以外にも薬剤師の能力を発揮できる職業はたくさんあるので、少しでも研究に興味があれば大学院の進学を考えてみてはどうでしょうか」と、後輩に大学院進学を勧めました。また、薬学部は、女子学生の割合が高いにも拘らず、女性の教授がとても少ない現状にあることから、一緒に頑張ってくれる人がいれば嬉しいと、後輩達に伝えていました。

《福山大学における現状》 2017年4月現在

